



# 一発、カウントダウン。

## カウントダウン®

1キロ粒剤

新登場



### 雑草の無い水田へ

- 使いやすく、高性能な初・中期一発処理除草剤。
- 高葉齢ノビエを一発処理で枯らす“除草力”。
- ホタルイ、コナギ、難防除多年生雑草、多年生イネ科雑草、SU抵抗性雑草にも高い効果。
- 田植同時・直播水稻・新規需要米にも使える高い安全性。



ノビエ、SU抵抗性雑草(コナギ、ホタルイ)、難防除多年生雑草(クログワイ、オモダカ、コウキヤガラ)、多年生イネ科雑草(キシュウスズメノヒエ、エゾノサヤヌカグサ)に有効です。

水稲用初・中期一発処理除草剤

# カウントダウン® 1キロ粒剤

- 農林水産省登録：第24061号
- 有効成分：トリアファモン……0.50%  
フェンキントリオン…3.0%  
フェントラザミド……3.0%
- 毒性：普通物 「毒物および劇物取締法」にもとづく毒物・劇物に該当しないものを指している通称



## 特長

1	3成分で高い除草効果	3種混合で広い殺草スペクトラムを示します。
2	ノビエへの優れた除草効果	特に高葉齢のノビエに対する殺草力が高く、長期残効性を示します。
3	難防除多年生雑草への高い除草効果	クログワイ、オモダカ、コウキヤガラなどに高い除草効果を示します。
4	多年生イネ科雑草に対する高い除草効果	キシウスズメノヒエ、エゾノサヤヌカグサに高い除草効果を示します。
5	SU抵抗性雑草に対する高い除草効果	SU抵抗性ホタルイ、一年生広葉雑草、ミズアオイなどに有効です。
6	田植同時散布可能	水稲に対して高い安全性を示します。
7	直播水稲への適用性	直播水稲のイネ1葉期からノビエ3葉期まで使用できます。
8	新規需要米に対する高い安全性	4-HPPD阻害剤に感受性の品種に対しても安全性を示します。

## 適用雑草と使用方法

(2019年1月現在の登録内容)

作物名	適用雑草名	使用時期	10アール当り 使用量	使用回数*	使用方法
移植水稲	一年生雑草 および 多年生イネ科雑草 マツバイ、ホタルイ、ヘラオモダカ ミズガヤツリ、ウリカワ、ヒルムシロ セリ、クログワイ、オモダカ、コウキヤガラ	移植時	1kg	本剤 1回 トリアファモン 2回 フェンキントリオン 2回 フェントラザミド 1回	田植同時散布機で施用
		移植直後～ノビエ3葉期 ただし、 移植後30日まで			湛水散布 または 無人航空機による散布
直播水稲	一年生雑草 および マツバイ、ホタルイ、ミズガヤツリ ウリカワ、ヒルムシロ、セリ	稲1葉期～ノビエ3葉期 ただし、 収穫90日前まで			

\*印は収穫物への残留回避のため、本剤およびそれぞれの有効成分を含む農薬の総使用回数の制限を示します。

## 注意事項

- 使用量に合わせ秤量し、使いきって下さい。
- 本剤は雑草の発生前から生育初期に有効なので、ノビエの3葉期までに、時期を失しないように散布して下さい。なお、多年生雑草は生育段階によって効果にふれが出るので、必ず適期に散布するようにして下さい。ホタルイ、ヘラオモダカ、ミズガヤツリは3葉期まで、ウリカワは2葉期まで、ヒルムシロは発生期まで、セリは再生前から再生始期まで、オモダカ、クログワイは発生前から発生始期まで、コウキヤガラは発生始期まで、キシウスズメノヒエは再生茎3葉期まで、エゾノサヤヌカグサは3葉期までが本剤の散布適期です。クログワイ、オモダカは発生期間が長く、遅い発生のもめでは、十分な効果を示さないもので、必要に応じて有効な後処理剤と組み合わせて使用して下さい。
- 散布の際は、水の出入りを止めて十分な湛水状態(水深3～5cm)のまま、まきむらが生じないように均一に散布して下さい。また、極端な浅水や深水での使用はさけて下さい。
- 無人航空機で散布する場合は、次の注意を守って下さい。
  - 1) 散布は使用機種の使用基準に従って実施して下さい。
  - 2) 専用の粒剤散布装置によって湛水散布して下さい。
  - 3) 事前に薬剤の物理性に合わせて粒剤散布装置のメタリング開度を調整して下さい。
  - 4) 散布薬剤の飛散によって他の植物に影響を与えないよう散布区域の選定に注意し、当該水田周辺部への飛散防止のため散布装置のインペラの回転数を調整し、圃場の端から5m離れた位置から圃場内に散布して下さい。
- 5) 水源池、飲料用水等に本剤が飛散、流入しないように十分注意して下さい。
- 散布後3～4日間はそのまま湛水を保ち、田面を露出させないようにし、散布後7日間には落水、かけ流しはしないで下さい。また、入水は静かに行なって下さい。
- 浅植え、浮き苗が生じないように、代かき、均平化および植付作業は丁寧に行って下さい。未熟有機物を使用した場合は、特に丁寧に行って下さい。
- 以下の条件では薬害を生じるおそれがあるので使用をさけて下さい。
  - 1) 砂質土壌の水田および漏水田(減水深2cm/日以上)
  - 2) 軟弱苗を移植した水田
  - 3) 極端な浅植えの水田および浮き苗の多い水田
- 稲の根が露出する条件では薬害を生じるおそれがあるので使用しないで下さい。
- 著しい多雨条件では除草効果が低下する場合がありますので使用はさけて下さい。
- 散布田の田面水を他の作物に灌水しないで下さい。
- 薬害を生じるおそれがあるので、後作物としてなす、たまねぎおよびさやえんどうを栽培しないで下さい。
- 本剤はその殺草特性から、いぐさ、れんこん、せり、くわいなどの生育を阻害するおそれがあるので、これら作物の生育期に隣接田で使用する場合には十分に注意して下さい。
- 畜に対して影響があるので、周辺の糞葉にはかからないようにして下さい。
- 本剤の使用に当たっては、使用量、使用時期、使用方法などを誤らないように注意するほか、別途提供されている技術情報も参考にして使用して下さい。特に初めて使用する場合や異常気象の場合には、病虫害防除所等関係機関の指導を受けることが望ましいです。

●使用前にはラベルをよく読んで下さい。 ●ラベルの記載以外には使用しないで下さい。 ●本剤は小児の手の届く所には置かないで下さい。



## バイエル クロップサイエンス株式会社

東京都千代田区丸の内1-6-5 〒100-8262 <https://cropscience.bayer.jp/>

お客様相談室 ☎0120-575-078 9:00～12:00、13:00～17:00  
土・日・祝日を除く

(F-3267 19.01.1S)